

経営比較分析表／団体全体（平成30年度決算）

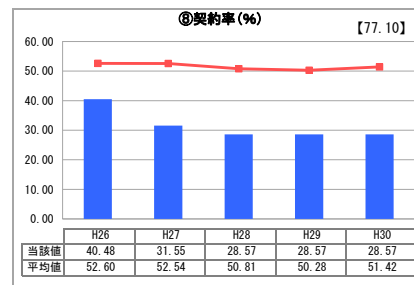
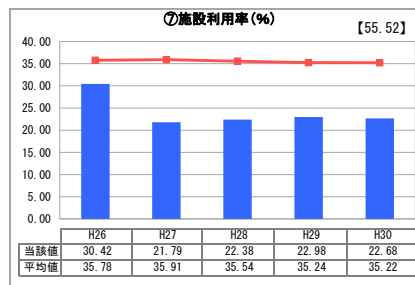
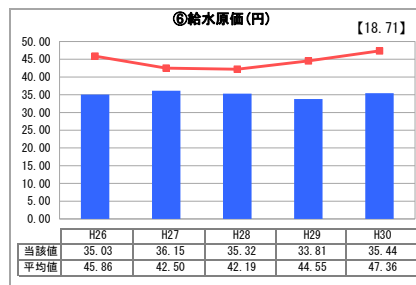
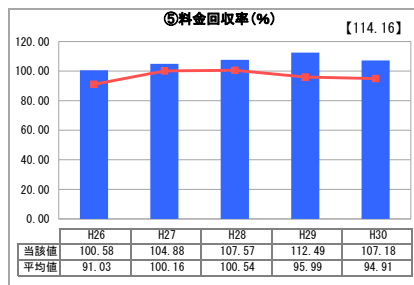
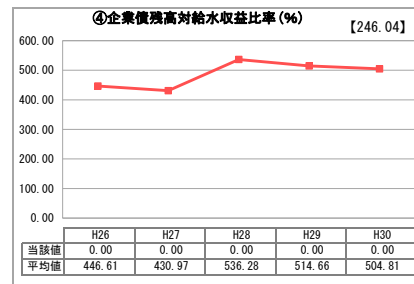
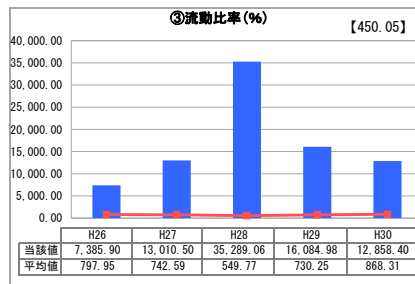
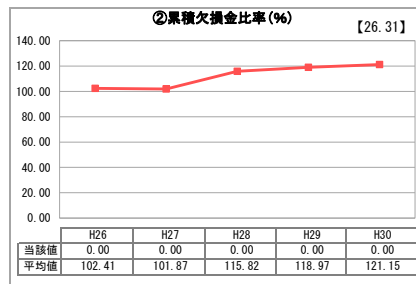
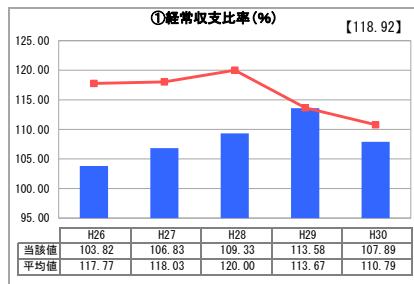
鹿児島県 鹿児島市
【事業概要】

業務名	業種名	現在配水能力(合計)(m ³ /日)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m ³)
法適用	工業用水道事業	1,680	極小規模	1	381
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量(m ³ /日)	管理者の情報	
-	99.4	4	480	自治体職員	

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

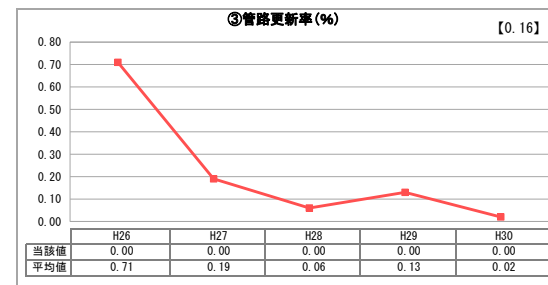
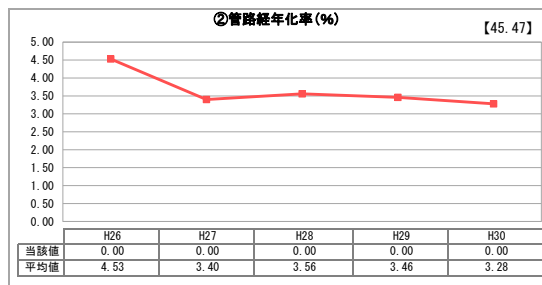
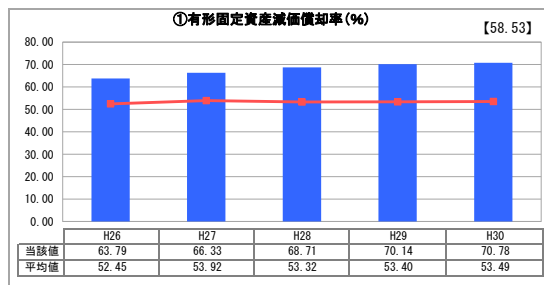
①経常収支比率は、各年度100%以上であり、費用を工業用水道料金等で賄えている。
また、⑤料金回収率も各年度100%以上であり、費用を収益の柱である工業用水道料金で賄えている。
②累積欠損金比率は各年度0で、これまでの累積欠損金が生じていないことを示している。
③流動比率は、短期的な債務に対し支払うことができる現金等を保有できている状況である。
④企業債残高対給水収益比率は各年度0で、企業債の借入が生じていないことを示している。
⑥給水原価は、各年度ばらつきはあるものの、類似団体に比べ低い状況にあり、費用が抑えられている。実使用水量の減少傾向が続いているため、今後とも計画的かつ効率的な事業運営により、同原価の抑制に取組む必要がある。
⑦施設利用率は、27年度以降ほぼ横ばいであり、類似団体に比べ低い状況にある。
⑧契約率は、28年度以降ほぼ横ばいであり、類似団体に比べ低い状況にある。

責任使用水量制により一定の収入は確保できるものの、実使用水量の減少傾向が続いているため、今後とも計画的かつ効率的な事業運営を行っていく必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、年々増加傾向にあり、既存施設の経過年数が高まっている。
既存施設の経過年数が高まっており、維持管理や経年劣化に伴う改良・更新に要する費用の増加が見込まれる。

2. 老朽化の状況



全体総括

責任使用水量制により一定の収入は確保できるものの、今後、既存施設の維持管理や経年劣化に伴う改良・更新に要する費用の増加が見込まれるなかで、工業用水を安定供給するため、計画的かつ効率的な事業運営を行っていく必要がある。